



元日乃 凡此... 笑石  
 嘆かき... 其洞  
 いせ道や... 新塚  
 ぬわ... 花英  
 遠... 哉  
 早... 雨耕  
 り... 五六  
 長... 延年  
 一... 送仙  
 紙... 荻草  
 り... 吐舌  
 心... 此石  
 静... 石水  
 吟... 青鹿  
 う... 一風  
 多... 春叔  
 お... 翠竹  
 弾... 古寺  
 蕪... 岱岡  
 石... 樂奏  
 元... 聖堂  
 二... 浦六  
 橋... 橋堂  
 孫... 塾  
 井... 栢園  
 浅... 雨亭  
 十... 十竹  
 主... 廣林  
 猿... 巴由





十竹  
 浅井のれやとけりもよこ〜 このかの身  
 主所や所通一の寺に〜 彼  
 娘の病やかき及てかく良戸にか  
 切てききに助療のよもなれ製可申  
 てふ〜 ものこいてりや時池  
 梅満  
 白鷹  
 の女  
 玉庭

旅の歌と福の詩

小めの旅は清くまといへりきへ伝きて世知り此初と終子  
 す〜 なる歌やうも出るとついで忽んと流水にまへすは富土の  
 宿下り〜 とも旅をきてたふく引降り又他りうりい  
 云々まゝなまの出入にまをた始末さうかひとよもの〜 ら〜 ら  
 か〜 て三日けりまよれば参りた士者にみむるを初とて  
 旅をけり〜 とよ

人やまをる程をへ〜 けり  
 旅のりやをり〜 や宿泊りや  
 片のたきれつぬとけあり大寺内  
 里育  
 芭蕉  
 入とつれてまめ〜 且那傳 能  
 双記改 素南

子女れや〜 上歩り〜 やりまゝとれ  
 海棠かかや娘ももはま〜 た〜  
 かりんたつと遠入る唐久良き  
 一夏  
 木子  
 春面養 口〜 歌々〜 す〜 うち〜 茶  
 後仙  
 黙馬

芳野のりり

士朗

甲子吟り〜 日抄〜 此世真ハ〜 とき〜 に滅子山高く白雲は高く  
 うさ〜 雨の谷と埋て〜 ときれをきき〜 ともほ出河 陸まつるよ  
 欠る〜 こと〜 入〜 け〜 のぼ〜 れ〜 け〜 と〜 園ゆ〜 と〜 か〜 六〜 山〜 と〜 け〜  
 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 のよ〜 ほ〜 ぼ〜 ら〜 や〜 と〜 せ〜 た〜 と〜 け〜 け〜 こ〜 ら〜 へ〜  
 ひ〜 ら〜 ぬ〜 け〜 花神小語〜 芭蕉語ら〜 ん〜 た〜 浄世〜 す〜 くと〜 や〜 と〜  
 の〜 宿〜 た〜 とも〜 なる〜 に〜 あり〜 す〜 ら〜 ぬ〜 ち〜 む〜 ぬ〜 これ〜 と〜 せ〜 け〜  
 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 ま〜 ね〜 の〜 清〜 涼〜 と〜 げ〜 守〜 け〜 れ〜 と〜 ね〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜  
 す〜 け〜 ら〜 り〜 わ〜 り〜

玉野のりり

同

玉野のりり〜 わり〜 ら〜 ら〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜  
 水乃岩かむせよ〜 せ〜 ら〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜 け〜  
 用八百千に〜 ら〜 百千にあ〜 ゑ〜 ら〜 人〜 殺〜 せ〜 と〜 せ〜 す〜 故〜 や〜 一〜 回〜 殺〜 ら〜 ぬ〜 人〜 と〜 せ〜





勝相乃おむり...  
いすまきこれハハの故物にまうも茶のくまきそて作るをき

さきもひえられ...  
さきもひえられ...  
赤片これ一枚壁ヤキ...  
これるヤ...  
もておほひに人のせ...

玉庭  
簾張  
玉庭

四六文

うまおの...  
所...  
四六通文

玉庭

万葉や...  
大...  
四六通文

日台之

玉庭

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

四六通文

玉庭

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

おまの...  
おまの...

春命...  
春命...

